

## 調査研究報告書のサマリーについて

令和2年度老人保健健康増進等事業

<地域におけるより効果的な見守り支援体制の構築に向けた調査研究>

<名張市>

本事業では、地域で支援を必要とする高齢者に対し、情報収集・共有のための先端技術を試行的に導入することで、高齢者の支援ニーズを探求しつつ、見守りや緊急時の対応等に関する効果的・効率的な支援手法について検討した。

三重県名張市内を調査対象地区として、名張市地域包括支援センターにて把握している要支援者のうち、単身高齢者世帯等条件に当てはまる約10件を対象とした。対象者の地域包括支援センター職員への応答状況を録音機器等で収録し、対象者がどのような質問にどのような反応をするか、対象者の介護度等基本情報をふまえて観察をする。その後、分析結果を元にスマートスピーカー等に应用可能かについて検討する。また、先端技術として、スマートスピーカーを対象者に配布及びまちの保健室に設置して、事前および事後にインタビューの実施し、地域包括支援センター職員にはタブレット端末を配布して、高齢者の見守りや緊急時の対応等に関する効果的・効率的な支援手法について調査した。

その結果、先端技術は新たな支援手法につながるものと考えられた。一人暮らしの高齢者等が居宅内での会話がないことにより発生していると思われるコミュニケーション不足やフレイルの予防等、また、周囲の支援者が行う介護予防等のための見守り支援体制の効率化及び関係機関の間で行う情報共有を円滑化した新たな見守り支援体制の構築の可能性も示唆された。ただし、収集したデータの取扱について利点とリスクの両方について利用者から意見が得られた。したがって、スマートスピーカーといった先端技術は、リスクを上回るメリットが得られることで導入が促進されることが伺えた。タブレット端末の利用についても、同様である。

1人暮らし高齢者の増加、老老介護や8050問題の顕在化など、地域を取り巻く環境は年々複雑化・多岐化し、今までの支援手法では対応できない事例も出てきている。支援の担い手も限られている中で、更なる効果的・効率的な支援手法については、地域住民を含め、市内の関係者が共に向き合い、先端技術の導入を併せていくことにより、自立性・主体性のある地域づくりにつながるものと思われる。